



HFNC

演者

公立陶生病院 救急部長 / 集中治療室長

横山 俊樹 先生

High flow nasal cannula (HFNC) は、2011 年にはじめて本邦に導入された比較的新しい呼吸管理である。原理的にはただの酸素療法ではあるが、特殊な専用カニューレを用いることで、通常では考えられないほどの高流量の混合空気 / 酸素を供給し、かつ、十分な加温加湿が可能な構造となり、人工呼吸管理に準ずる適応が期待されている。高流量の混合酸素の経鼻投与は解剖学的死腔内において残存呼気を洗い流すことや呼吸仕事量の軽減する効果があるとされ、また呼気時にはある一定の陽圧を形成するとされ、PEEP に準ずる効果があるとされている。

海外を中心に本 HFNC は様々な領域において有効性を検討されている。急性呼吸不全においては一部の報告では NPPV と同等以上の効果があることが報告されたが、一方で免疫不全下の呼吸不全では通常の酸素療法と差がないことを示す報告もある。近年では、抜管後や挿管前の酸素療法として注目され、一部ではⅡ型呼吸不全や在宅領域でも有効性が言われるようになってきた。

本邦においても HFNC は様々な施設で急速に広がっている。極めて使用方法が簡便であるうえに、患者も忍容性が比較的良く、なおかつデバイスが他の人工呼吸器と比べると安価であるため、新規の導入が非常にたやすいことが言える。ただし、この点は注意が必要である。十分な根拠なしに安易に使用されてしまう傾向があるデバイスであることは否めない。また簡便な方法であるがゆえに、実際の管理方法についてコンセンサスは少ない。実際に使用する施設において様々な経験を積み重ね、どのように活用していくのが妥当なのかを集積していくべき段階にあると考えられる。

当院においても、本 HFNC を導入以降、様々な領域についての経験を重ねてきた。急性呼吸不全における管理のみならず、Ⅱ型呼吸不全、リハビリテーション、在宅など様々な領域にチャレンジしてきた。これらの経験を過去の知見とともに提示したいと考える。